

＜教育目標＞



- 思いやりのある子ども
- 進んでやりぬく子ども
- じょうぶな子ども
- よく考える子ども

平成28年5月31日(火)
練馬区立豊玉第二小学校
校長 佐野 匡

豊二小だより 6月号

とよにまなびフェスト

校長 佐野 匡

I.国語

◎学期末における漢字テスト(書くことにかんする課題)

1年～3年 85点 (1年生はひらがな カタカナ を含む) 4年～6年 80点

◎年間読書

全学年 年間読書時間 2000分(今年度は6月に示しているのので1500分)

II.算数

◎算数技能面テスト(算数にかんする課題)

1年～3年 85点以上

4年～6年 80点以上

III 学ぶ姿勢

◎1日1回は自分から進んで発言する。

また、ご家庭には次の3点について、ご家庭のご協力をいただけるようお願いいたします。

○学年×20分の家庭学習に取り組むこと

○前日までに学習の準備・宿題を終わらせ、わすれものをしないこと

○朝早く起床し、必ず朝食をとらせること

学校からは、「忘れ物のないようにしてください」「遅刻のないようにご協力ください」といったお願いを「学校だより」等を通じてお伝えする機会が多いです。家庭での基本的な生活習慣の確立がそのまま子供たちの学習意欲にも関連しているというデータもあります。子供たちの学力向上を図るためには、家庭と学校が協力することが重要となってきます。その一方、「家庭の協力のもと、豊二小に通う子供たちにはこれだけの力を付けさせます。」という約束が具体的ではないという思いもありました。

学校の教育目標は、定性的なもので(例えば「明るくのびのびと」といったように)、達成状況もイメージで語られることが多かったようです。将来にわたっての成長を願う教育だからこそ、長期的視野に立った目標としては意義あるものであったことは事実です。一方で達成状況が見えにくいという課題もありました。そこで教育目標をベースとしながら、数値化できるものは数値化して提示することで、成果を学校・保護者で確認するものとして「とよにまなびフェスト」に取り組みます。

もちろん、この内容だけを学習するわけではありません。学校ではすべての教育活動を行い、評価をします。その中のいくつかを具体的にすることで、指導の確認や成長の実感につなげます。まなびフェストの内容ができるようになることは、他の力もついてくることとなります。「できた。」「わかった。」「がんばった。」をたくさん経験できるよう指導にあたっていきます。